

令和7年度 市長のタウンミーティング実施報告書

開催日	会場名	対象地区	参加者数 (人)	YouTube 視聴者数(最高 時点)(人)	YouTube チャット意見 数(件)
10月9日(木)	ありそドーム 産業展示ホール	道下、経田、片貝	52	28	0

市側出席者 市長、企画部長、企画部次長、情報広報課長、その他関係職員

※対象地区は便宜上分けましたが、いずれの会場にも参加可能としました。



Ⅰ 市長講話

市長 村椿 晃 「魚津市第5次総合計画について」
「富山地方鉄道のあり方の検討状況について」
(45分程度 資料に基づき講話※各会場共通)

2 事前質問(地区から事前にいただいた提言・提案等について)

〈道下地区振興協議会〉

(1) 地域と市が一体となって取り組む協議会等の活動を精選できないか。双方の負担軽減にもなり、地域のなり手不足の解消にもつながる。

地区環境保健衛生協議会や他の団体でも市と一体となった会合や活動等があると思われるので、それぞれ市の窓口で活動の洗い出しを行い精選に努めてほしい。

(村椿市長)

地区環境保健衛生協議会の推進員をはじめ、民生委員児童委員に代表されるような、福祉、環境、防犯、防災など、さまざまな分野における各種団体や組織の委員につきまして、現在の自治会・町内会単位で選出いただいております。それぞれの活動にご尽力いただいておりますことにこの場をお借りして感謝申し上げます。

一部の自治会では、数多くの役職を受けるためのなり手が不足していることから、時の自治会長が各種団体の委員を兼務されたり、自治会長の奥様が役をお引き受けされたりしていると伺っております。行政と密着した公的な役割を地域の皆さまにお受け

いただいていることは、本当に頭の下がる思いであり、その会合や活動が多すぎるといったご指摘につきましても、何か改善する手立てがないか一度考える時期に来ているのではないかと感じております。

いずれにいたしましても、多岐にわたる公的な役割について、組織横断的に洗い出しを行いながら、地域の皆さま方の過度な負担とならないような仕組みづくりを模索・検討していければと考えております。県内の自治体で自治会の合併が始まっている例があります。隣の自治会や町内会と合併し、地域のなり手不足の解消や負担軽減をしていこうという取り組みです。現在、担当の地域協働課では、「自治会合併の手引き」といったものを作成し、できるだけ早い段階で各自治会にお示ししたいと考えております。町内会の合併を推奨しているわけではありません。そういう形で担い手不足の解消を図っている事例があるという1つの例であります。

また、役職や各委員の役割を確認し、減らすことができないかという検討していくことも重要であると思っております。

〈経田地区振興協議会〉

(1) 富山地方鉄道の存続を望みます。その理由として、経田地区は魚津工業という「ものづくり」の高校があり、多くの生徒が富山地方鉄道を利用しておられます。地区の足であり日常生活には欠かせないもので、4300 余人にとっては財産です。経田地区としては、経田駅から黒部宇奈月温泉駅を経由し東京へ2時間半で行ける利便性があり、地域の活性化に必要なインフラと考えています。同じく関西方面に行くにも経田、新魚津駅を使い、あいの風とやま鉄道で富山や金沢に短時間で行くことができ、経田の公共交通の要です。今後、地区としてどのような方法で市や県に要請するかを考えています。よろしく願いいたします。

(村椿市長)

富山地方鉄道鉄の問題につきましては、一番のネックは利用増をどう図るかです。富山地方鉄道の問題を解決していく1つの方法として、鉄道の再構築事業という制度があります。国が半分、富山県が4分の1、自治体が残りを応援して、鉄道事業者もお金を出して、鉄道を存続させるための取り組みをするという再構築事業があります。その事業の大前提として、利用者が増えるということと利便性が増すことの2つの条件が必要になります。利便性が増すことの例としては、キャッシュレスで利用できる、エコマイカ等の交通ICの導入ですとか、車両などを新しいものに変えて、乗りやすくしていくとか、方法はいろいろ考えられます。利用者を増やしていく計画の策定が一番の問題です。

今、上市駅から宇奈月駅までの区間でどう進めていくかを調べるために3市1町共同での調査を行っております。再構築の可能性に繋がる要素がどこまで出てくるのかを期待し、何とか地鉄を残していきたいという思いはあります。このまま赤字の幅が増え続けていくという状況になると厳しいです。それを解消するためには、すぐ再構築事業に

取り組めるかどうかが鍵になります。結論はまだわかりません。調査の結果を踏まえて、本当にどこまで可能性があるのかということを検討していくことになります。協議の結果等については、住民の皆様にお知らせをしてまいりたいと考えております。

〈片貝地域振興会〉

(1) 交流人口、関係人口創出に向けた取組について、片貝地域振興会は、片貝コミュニティセンターの指定管理者の指定を受けて実施している事業「宿泊施設毛勝の郷シェルピース」を活用して、県のグリーンツーリズムとやまの支援を受け、帰農塾や片貝塾などの片貝の自然をめぐるイベントを実施し、交流人口、関係人口創出に向けた取組を行っています。今後更なる交流人口の拡大に向けて、安心安全な観光ができるように、片貝川上流の洞杉郡へのアクセス道路である南又への道路の整備、洞杉観察道の整備には万全を図っていただきたい。

(村椿市長)

市道南又線の道路整備につきましては、現在のところ具体的な計画はございませんが、雪解け時期にあたる4月下旬や大雨などの異常気象が発生した後にはパトロールを実施し、観光で訪れる方々の通行に支障がないよう、必要に応じて崩土の除去や支障木の伐採、沿道の草刈などを行っております。今後も道路の維持管理を適切に行い、引き続き観光道路として安全にご利用できるよう努めてまいります。

洞杉観察道の整備につきましては、2007年に「最大洞杉」と呼ばれる巨木の安全な周遊と洞杉の保全（根等を傷つけない）を目的として「木道」と「ロープ柵」の整備を行いました。毎年、道路の冬期間閉鎖が解除されるのと合わせて洞杉観察道の点検を行い、安全確認や傷んだ個所の補修等を行っています。本年は、大雪による積雪の影響と雪崩により「ロープ柵の支柱」が多数破損し、「木道」にもガタツキがあることが確認されたことから、ロープ柵の支柱及び木道の補修を実施し、9月上旬に完了しています。見学者が多い紅葉シーズンに間に合い安堵しています。今後も市民の皆様が安心して樹齢500年以上といわれる洞杉にふれ、魚津市の素晴らしい自然を体感できるよう観察道の点検及び整備に努めてまいります。

3 意見交換（参加者からの提言・提案等について）

(1) クマの駆除、クマ対策について

(村椿市長)

有害鳥獣、クマ、サル、イノシシについて、特にクマの問題については、毎日のようにニュースで出る状況でもあり、私も、いつ魚津で、同じようなケースが発生してもおかしくないというふうに、いつも心配しながらニュースを拝見しております。

今、緊急銃猟制度ということで、市町村長の指示で、猟銃でクマを撃つということが可能になりました。周りに人がいない等、安全確保が可能な状況を確認しないと指示が

出せません。他県のケースを見られたと思いますが、安全対策が整うのを待っている間にクマが動き出し、警察官が警察官職務執行法に基づいて発砲、捕獲したという事例もありました。市町村長の命令であろうが、警察官職務執行法であろうが、やはり危険な状態にあるクマをいち早く対応できるような体制を取ることが重要だと思っています。

罨については、仕掛けられております。クマもかしこいので、どのぐらいが罨にかかっているのかは把握しておりません。

（２）富山地方鉄道の路線維持について

市長の講話にありましたように、富山地方鉄道の路線維持については、地鉄に乗る人を増やすことに同感です。黒部の宇奈月温泉駅を利用する観光客などを誘致し、利用者を増やしましょう。そのために、魚津駅前に飲食店や飲み屋などの賑わいが必要となってくると思います。

（村椿市長）

列車に乗る人を増やすために、駅周辺のお店や列車に乗っていく目的地等を増やしていくというご指摘は、ご尤もだと思います。

再構築事業の話の中においても、鉄道を利用してもらうための町づくり、そのための地域づくりを進めていき、そのための駅周辺を開発していく、という例もあります。

市としては、駅周辺のお店などを１件でも増やしていくために、講話の総合計画のところで申し上げた魚津観光まちづくり会社が、まさにそのような取り組みを進めていくために作った会社でもありますので、しっかり取り組んでまいりたいと思っています。

なかなか答えにはなりませんが、意気込みだけお伝えしたいと思います。